

銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name 国土無双	e-mail
Title	
Message	
<input type="button" value="とうこう"/>	

[1141] ガビ～ン！！せっかく途中まで作ったのに(ToT) 2008年11月27日 20時0分

ブルーアイズさん e-mail

こんばんは。ブルーアイズです。

今日は就労以降コースのパソコン教室がありました。
一ヶ月か二ヶ月くらい前から来年のカレンダー作りに取り組んでいます。
専用のソフトを使ったりネットを利用すれば作るのは簡単なのですが
今まで習ったパソコン操作のおさらいの意味も含めてやろうということです。

ブルーアイズも四苦八苦しながら取り組んできて今日ようやく11月のカレンダーまでできました。

あとちょっとで12月まで出来上がり完成まじかです。
そこまでできたときちょうど今日のパソコン教室の終わる時間となり
「ああ、やっとここまでできた。来週には完成するな」とホッとして
保存しようとして

ところが！！

なんと保存しようとして操作を間違い、今まで作ってきたカレンダーが全部消えてしまいました！！

ガビ～ン！！せっかく一生懸命作ってきたのに…(ToT)

来週からはまた一からやり直さなければいけません…

みなさんもうっかり大切なデータを消去しないようにお気をつけください。

[1139] 精神障がい者に焼き物教える陶芸家 2008年11月26日 21時38分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

薬の影響で手がうまく動かない人もいます。体調が悪く、日によっては30分で切り上げる人もいます。現在通っている30～60代の8人の個性を生かし、作品を作るにはどうすればいいか、試行錯誤が続く。「仕事を見せることも仕事だ」と午後の作業の時間に一緒に創作する。

入院や加齢などの理由で工房を離れる利用者もいた。「本当に頑張っていて、頑張っていた」。障害の苦しさに耐える姿を思い出す。

運営主体は社会福祉法人に変わり、06年の障害者自立支援法制定で工房は就労や生産活動の機会を提供する「就労継続支援事業」になった。法律の施行で「工賃倍増計画」をうたう厚生労働省に対し、働くことだけが自立ではないと疑問を持つ。「どうしても働けない障害者もいる。工房は、障害者が生き方を楽しむための支援をする。いろんな価値観を認められる福祉制度であってほしい。ここは焼き物を楽しめるところであればいい」【山崎理絵】

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

人物略歴

すがわら・じゅんいち

笠間焼工房「陽」工房長。北海道上砂川町出身。旭川市窯業指導所、県窯業指導所(笠間市)で研修を受ける。76～78年、笠間焼の工房で働いた。笠間市大田町在住。

毎日新聞 2008年11月26日 地方版

作業所の役割は職業訓練や、社会適応プログラムなどいろいろあると思いますが、職に就いている国土無双が書き込むのもなんですが、働けない、精神障がい者が楽しめる作業所というのはいいと思います。

銀杏は今後、どのような、道に進むのでしょうか？

[1138] 精神障がい者に焼き物教える陶芸家 2008年11月26日 21時33分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

このところ、職場の状況が余りに大変で、出勤するのが憂鬱です・・・
この掲示板も、書き込み少なく寂しいですね・・・

ところで、ネット情報を見つけましたので、投稿します。

新しいびん： / 22 精神障害者に焼き物教える陶芸家・菅原淳一さん(54) / 茨城
生き方楽しめる工房に

素焼きをする前のオカリナの音色が、小さな工房に響く。笠間市の保健所跡の一角
を利用した、精神障害者のために作られた笠間焼工房で、北海道出身の菅原さんが
20年間、苦労を重ねて陶芸を指導している。

菅原さんは大学受験のため浪人中、雑誌の記事で知った陶芸を志した。北海道旭
川市と笠間市で窯業研修を受けた後、故郷の北海道上砂川町で窯を開いた。山の中
で、1人で粘土や鋳物を探し、うわぐすり作りにも熱中した。しかし炭鋳の町には高齢
化が忍び寄り、焼き物の産地でない土地で1人で続けることが不安になった。

87年、かつて修業した笠間に家族を連れてやってきた。「どうなるか分からないけ
ど、また戻ってきちゃった」

ちょうどそのころ、笠間保健所が中心となり、精神障害者のための笠間焼の作業所
作りが進められており、指導員の依頼が舞い込んだ。精神障害のことは知らなかつた
が「純粹に焼き物を教えよう」と引き受けた。

1人で創作していた時とは違い、十数人が身を寄せ合う空間での作業だった。障害
を抱えた利用者に作業をしてもらうのは簡単ではなかった。朝、建物を見ただけで足
が動かなくなることもあった。「自分が居心地のいい場所にすればいい」と考え直し
た。「つらい」という考えから離れると、次第に作業場が障害者にとっても居心地のい
い場所になっていった。

次に続きます。

[1137] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時28分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

また、病院に代わるサービス拠点の地域精神保健センターは、「週6日・1日12時
間」以上の稼働のものがイタリア全土で707か所。うち24時間365日フル稼働のセ
ンターは50だ。この「年中無休」こそが、地域精神保健サービスでは最も大事だ。しか
し、「バザリア法ができて30年もたつというのに、まだ、たったの50ですよ」とジャン
ニケッタさんは自国の改革のスローテンポにいらだちを見せた。日本に比べれば、これ
でも夢のような数字なのだが。

180号法によって、社会的危険性を理由にしての強制治療がなくなった。「180号
法は、治安的性格を捨てた世界でも稀有な精神保健法なのです。そのうえ、私立の医
療機関が強制治療をすることも禁じました」と大熊さんが付け加えた。

だが、「現在のイタリア右派政権はこの強制治療を復活させる改悪法案を提出しよう
としています」とジャンニケッタさんはいう。この動きに対して、家族会や当事者組織は

猛反対をし、国会議員に働きかけ国会での審議に待ったをかけている。その運動の先頭にたっているのが家族会に属する女性たちで、次のようなスローガンを掲げている。

「収容所回帰は許さない、もちろん、家庭を収容所にすることも許さない」

なお本セミナーは、千葉縣市川市で精神疾患を持つ人々の社会復帰をめざす「NPO法人リカバリーサポートセンターACTIPS」と「NPO法人NECST」の主催で行われた。

日本の「自立支援法」とは全然違い、精神科医が内部告発して、新たな法律を作ることに尽力したというのは、素晴らしいと思います。

イタリアに行ったことはありませんが、国民性はどのようなのでしょうか？

精神疾患に対して、地域で支援していくというの、住民の理解が無ければ難しいものだと思います。

我が国のお偉いさんにも、イタリアの試み見習って欲しいものです。

[1136] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時23分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

「選ぶべき道は一つ。病院に頼らずに地域で支える新システムをつくるしかないはずなのです。しかし、その方向に向かわなかった国アメリカでは、多くの人たちが路上に放り出され、ホームレスとなりました」

イタリアはアメリカとは違って、徹底した地域保健サービスの道を選択した。その改革の先頭に立ったのがフランコ・バザリアだ。精神病院院長だった彼は、精神病院の実態を世に知らしめるため、写真集の発行や、テレビ放映や、本の出版という、いわゆる“内部告発”に知恵を絞った。精神病院という名の『収容所』に、患者という名の『囚人』たちが、隔離され、捨てられ、死んでいく、そんなおぞましい姿を白日の下にさらした。

「こうして1960年代後半には、すでに地域保健サービス網をつくるための実践が動き出しました。1968年には旧来の精神保健法が部分的に改正されて、精神保健センターの設置が可能になりました。これが1978年の180号法の開花に道を開いたのです」

そして次のような数字が紹介された。

1971年には、9万4,800人ものがマニコミオ(精神病院)に入れられていた。180号法ができた1978年にはそれが6万4,752人に減り、20年後の1998年には7,704人に、そして20世紀の終わりにはゼロになった。今の精神科のベッド数は、総合病院の精神科と私立病院を合わせても1万床に届かない。

「イタリアの人口は5,500万で、日本の半分です。その日本の精神病院は、いま実に35万床ですから、イタリアの改革がいかに徹底したものかがわかります」と大熊さ

んが補足説明する。

次に続きます。

[1135] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時20分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先ほどの記事の続きです。

ジャンニケッダさんは、1970年代のトリエステで、イタリア精神保健改革の祖フランコ・バザリア(精神科医)のご近くで働いていた経歴から、「バザリアの娘」のニックネームを持つ。イタリア精神保健改革の生き字引だ。現在はサルデーニャ州サッサリ大学の社会学教授で「法律と精神医学」を専門としている。セミナーでは、180号法の意味と法律のもたらした効果やイタリアの現状について話した。

冒頭、元WHO事務局長のグロ・ハーレム・ブルントラントさん(ノルウェー元首相)の言葉「精神疾患を持つ人に対するケアは、途上国だけではなく先進国でもまったく不十分である。法律には人権の擁護が定められているにもかかわらず、現実には人権のはく奪が世界中で行われている」を引用し、「社会から否定された市民 denied citizens」の人権擁護にはたしたイタリアの“夢のような挑戦”を紹介した。

「1950年から60年にかけて、欧米各国で、精神医療に費やされる国家予算の負担が問題になり始め、アメリカ、フランス、イギリスなどで金食い虫の精神病院の閉鎖が進められました。最大の難問は、精神病院閉鎖の後、精神疾患の人たちの新しい居場所をどうするか、でした。世界中で女性解放運動が巻き起こった時期でした。病院閉鎖によって家族介護、すなわち女性の手になる重い世話へ回帰することは、人道に上許されない雰囲気でした」

次に続きます。

[1134] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時18分

国土無双さん e-mail

こんちは、国土無双です。

今日は公休日で午前中寝て過ごし、その後、年賀状の宛名印刷をしました。今年来た年賀状は、銀杏関係の方からの年賀状が少なく、学生時代の友人が中になりそうです。

ところで、ご存知の方も多いと思いますが、イタリアで、1978年に「バザリア法」という精神保健福祉に関する法律が制定されてます。

制定30年後の「バザリア法」の現状についてのシンポジウムが10月に千葉県であつたようです。

ネットで探したら記事がありましたので、投稿します。

イタリアの“夢のような挑戦” 地域精神保健サービスの国際セミナー
三井マリ子 2008/10/19

千葉県市川市で16日、国際セミナー「イタリアの精神科医療改革を知ろう！」が、精神疾患を持つ人々の社会復帰をめざすNPOの主催で行われた。セミナーでは、バザリア財団理事長のジャンニケッダさんとジャーナリストの大熊一夫さんからの報告の他、当事者や家族との意見交換の場も設けられ、活発なやりとりがあった。

2008年10月16日、千葉県市川市において国際セミナー「イタリアの精神科医療改革を知ろう！」が開かれた。

イタリアから来日したバザリア財団理事長マリア・グラッツィア・ジャンニケッダさん(社会学者)とジャーナリスト大熊一夫さんの報告後、当時者や家族会の方との活発な意見交換があった。会場には終始熱心にメモをとる千葉県知事の堂本暁子さんもいた。

イタリアでは1978年、精神病院をなくして精神疾患をかかえる人たちを地域で支える新たな試みがスタートした。その土台となったのがイタリア精神保健法の180号法(バザリア法)だ。

イタリアは、この法律によって精神病院を新たにつくることを禁止し、同時に既存精神病院への入院も段階的に禁止していった。さらには精神科医が行う強制治療にも厳しい歯止めを設けた。

次に続きます。

[1133] "国土無双さん ファイト！！ ブルーアイズさん 頑張って！！ 2008年11月22日 19時11分

三八(さんぱち)さん e-mail

今晚は、三八です。

まずは国土無双さん。世間知らずの私が申し上げるのは大変僭越ですが、御身体を大事にして、大変な苦難を乗り切ってください！！

次にブルーアイズさん。1/23(金)の大会で、選手になって頑張ってください！！東京都代表になる事を陰ながら応援しています。仰る事、同感です。監督さんが替わったから申し上げますが、幾らアマチュアスポーツでも監督さんも技量が問われて良いと思います。結果を重点にして然るべきです。昨年でしたが、優れた監督さんの采配を拝見したと入力しました。そのチームは一昨年、決勝戦で敗れた相手に対して良く研究して、昨年、リベンジをしたからです。両チーム共、強豪です。ですから他人が何と言おうと実績を出すべきでしょう。因みにこの優れた監督さんは「鬼」と所属の選手達から言われているそうです。又、銀杏の選手達もきつい練習に耐えるべきです。次に、銀杏の選手達の素質は良いと思います。まさか、強豪チームの選手達は外人部隊を入れている訳では無いでしょうし、監督さんのご指導が良くても勝てないのならば、強豪チームの選手達の大半がバレーボールの経験者で有るとしか考えられませ

ん。これならば銀杏の監督さんのご苦勞は想像に絶します。以上、又、大変僭越な事を申し上げましたがどうかお許し下さい。m(_)_m 勿論、悪気は有りません。

さて、思うところが有って、重大事以外は当分投稿致しません。(^^ゞ

最後に、皆様。ご自愛の程お過ごし下さい。

[1132] 爆睡する公休日・・・ 2008年11月22日 16時47分

国土無双さん e-mail

こんにちは、国土無双です。

今日は、公休日で、4時まで、朝食、昼食を挟んで、爆睡してました・・・
このところ、年末商戦の前哨戦で物凄く忙しく、新人さんの教育係も兼ね、疲労はやはり凄いようです。

仕事の日、働くことは当たり前だと思って、職場で頑張りますが、公休日に、爆睡していることが多く、一体、何のために働いているのかなぁ～とってしまいます。
年賀状作りも今日は全く進まず、間に合うかどうか・・・

ブルーアイズさんの書き込み読みましたが、銀杏の方は人間らしい生活送ってらっしゃいますね。

銀杏で少し、充電期間でも取りたいものです。

職場の方は、これから、ますます、忙しくなりますが、体調崩さないよう、無理せず、気張らず、乗り切って行きたいと思います。

[1131] これはまさに部活なみだ！！ 2008年11月21日 20時21分

ブルーアイズさん e-mail

こんばんは。ブルーアイズです。

今日はバレーボールの練習がありました。
来年の1月23日(金)に関東大会出場をかけた東京都代表を決める大会があります。
それに向けての練習ということです。

いままで監督は管理人さんがやってくれていましたが
これからはコーチのタニさんに正式の監督さんになっていただくこととなりました。

しかし今日の練習はまさに部活なみにハードでした。
ブルーアイズは監督さんに言われたことができなかつたときなど
「ブルーアイズッ！！なにやっているんだっ！！」と大声でしかられたりしました。
ブルーアイズはノミの心臓なのでしかられるたびにびくっといたしました。
11月の大会のときの優しい監督さんはいったいどこへ行ったのかといった感じでした。
みなさんも優しく厳しいご指導を受けていました。

しかしこれも銀杏を今度の大会で良い成績をおさめさせようというお気持ちからだわかるのでありがたくおしかりをいただきました。
その辺はみなさんも同じようでした。

じつはブルーアイズは来年に入ったら仕事探しをしようかとおもっていましたが当分バレーボールに全力を使わなければいけないようで仕事探しはまだ先のようです。

今週はバレーボールやらバイトやら作業やらで忙しく疲れました。
明日からの連休はゆっくりすごしたいと思います。
それではみなさん、良い週末&三連休を。

[まえのページ](#)[あたらしいページ](#)

パスワード

削除番号

1141

[記事削除](#)powered by **du one**
NET